

令和8年1月 8日

東陽中学校保護者様

栃木市立東陽中学校長 竹田 昌彦

「東陽中学校に関するアンケート」結果について

11月下旬に実施しました「東陽中学校に関するアンケート」の集計がまとまりましたので御報告いたします【別紙】。

つきましては、この結果をしっかり受け止め、今後も本校の教育活動の改善に努めて参りまいりたいと思います。

記

別紙のような集計結果になりました。比較的評価が高い項目については、成果と捉え、更なる推進を図りたいと考えています。また、比較的評価が低い項目を本校の課題と捉え、次のような改善策を考えました。

《成 果》

4 教職員は居心地の良い集団、学級づくりに努めている。	保護者 3.1
-----------------------------	---------

○本校では、教職員が協力し合い、居心地の良い学級づくりに努めています。今回の評価では、生徒からは平均3.6点と高い評価を得ることができ、保護者の皆様からは3.1点という結果となりました。学校としては、生徒に目標や行動の基準を明確に示し、生活環境を整えるとともに、人間関係をつなぐための『しあわせ』を意図的・計画的・組織的に実践しています。今後も取組を充実させ、さらに向上が見られるよう努力してまいります。

8 教職員は生徒の人権を尊重し、思いやりの心の育成に努めている。	保護者 3.0
----------------------------------	---------

○教職員は生徒一人ひとりの人権を尊重し、思いやりの心を育むことを大切にしています。生徒からの評価は3.8点と非常に高い評価となりました。学校としては、目標や行動の基準を明確に示し、生活環境を整えるとともに、人間関係をつなぐための『しあわせ』を意図的・計画的・組織的に実践しています。今後も取組を充実させ、さらに向上が見られるよう努力してまいります。

12 学校は、教育相談やいじめに関するアンケートを実施するなどして、いじめ防止等に取り組んでいる。	保護者 2.9
---	---------

○教育相談やいじめに関するアンケートを実施するなど、いじめ防止に積極的に取り組んでいます。全ての生徒が、友人や教職員との信頼関係の中で安心・安全に学校生活を送り、規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加できるよう、『授業づくり』『集団づくり』を進めています。今回の学校評価では、生徒から3.5点と高い評価を得ることができます。これまでの取組の成果が表れていると判断しています。今後も引き続き、生徒が安心して登校できる学校づくりを継続してまいります。

21 お子様は、学校に仲の良い友達がいて良好な人間関係を築いている。	保護者 3.3
------------------------------------	---------

○本校では、生徒が仲の良い友人と良好な人間関係を築き、安心して学校生活を送れるよう努めています。今回の評価では、生徒から平均3.7点と高い評価を得ることができました。これは、生徒にとって最も重要であり、登校意欲の原動力となる人間関係づくりが成果として表れているものと考えています。今後は、授業や行事を通じて生徒同士の信頼関係をさらに深めるとともに、学校生活の様子を積極的に発信し、保護者の皆様にも安心していただけるよう努めてまいります。引き続き『魅力ある学校づくり』を継続し、生徒が主体的に学び、安心して登校できる環境を整えていきます。

《課題》

6 教職員は分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている。 保護者 2.8

○保護者の皆様からは 2.8点という厳しい評価でしたが、生徒からは3.3点というまずまずの評価を得ています。各教科で個別最適な学びや協働的な学びの実現に向け、授業改善を進めています。しかし、こうした取り組みがまだ十分に全体の底上げに結びついていない点も課題として受け止めています。いただいた御意見を踏まえ、今後も生徒一人一人の理解を確実に支える授業づくりに努めてまいります。引き続き、御理解と御協力をお願ひいたします。

14 学校は小学校とのつながりを意識した教育を進めている。 保護者 2.8

○東陽ブロック(東陽中学校区の小中一貫教育推進ブロック)では、小学校から中学校までの9年間の学びと育ちの連続性を大切にし、各専門部会を組織し、定期的に研修や実践を重ねています。今年度も、来年度の新1年生に向けた入学説明会において、例年通り体験授業を実施しました。また、小中合同で取り組む「あいさつ運動」についても、より充実した形で行うことができました。これらの取り組みが、小中接続の課題として指摘されることの多い「中一ギヤップ」の解消に少しでもつながることを期待しています。

17 お子様は、進路や自分の将来について考えている。 保護者 2.6

○本校では、3年間を通して計画的にキャリア教育を実施しています。しかし、こうした取り組みが、生徒自身が将来を「自分事」として真剣に考える姿へ十分に結びついていない現状も見えてきました。今後は、これまでの取組を振り返りながらPDCAサイクルをより確実に回し、キャリア教育の充実を図るとともに、生徒が自分の将来について主体的に向き合えるよう、学校としてしっかり支援してまいります。

20 お子様は、学校の学習や家庭学習に自主的に取り組んでいる。 保護者 2.6

○本校では、自主学習の推進を重要な柱として位置づけ、学習記録や進路に関わるデータを活用しながら、生徒が自ら学ぶ姿勢を育てる取り組みを進めています。しかし、家庭学習の習慣が十分に身についていない生徒もあり、そのことが学習成果や進路選択に影響するのではないかと保護者の皆様が不安を抱かれている点も、今回の評価から受け止めています。今後は、これまでの取組をさらに見直し、生徒が「自分のための学び」として家庭学習に向き合えるよう、学校全体で支援の充実を図ってまいります。また、学習状況の見える化や家庭との連携を強化し、保護者の皆様とともに生徒の学習習慣づくりを支えていきたいと考えております。

24 お子様は、インターネットの使用(SNS等も含む)について家庭での約束を守って正しく使用している。 保護者 2.7

○保護者の皆様から 2.7点、生徒からは 3.6点 という結果となり、両者の間に認識の差が見られました。近年、SNSトラブルや不適切なネット利用は、決して「対岸の火事」ではなく、私たち東陽中でも現実に起こり得る課題です。こうした状況を踏まえ、本校ではこれまでメディアリテラシー教育を継続して行ってきましたが、今回の評価を受け、改めてその重要性を強く感じています。今後も、インターネットの正しい使い方や情報との向き合い方について、学年に応じた指導をさらに充実させ、生徒が自分自身を守りながら適切に活用できる力を育ててまいります。また、家庭との連携も大切にしながら、生徒の安全なネット利用を学校・家庭・地域で支えていきたいと考えております。